

**外国語教育メディア学会 (LET) 外国語教育基礎研究部会第 5 回年次例会
若手キャリアパス座談会 大学教員志望の部**

司会：田村祐（名古屋大学大学院）

登壇者：草薙邦広（広島大学）

名畑目真吾（共栄大学）

梅木璃子（広島大学大学院）

概要

大学教員としての就職を目指す若手にとって、大学教育改革にともなう大学教員の雇用形態の多様化はますます無視できなくなってきました。しかしながら、実際にどのようなポジションがあり、それぞれのどのような役割を担っているのかをうかがい知ることができる機会はあまり多くありません。そこで、「大学教員志望の部」では、まずこうした多様な雇用形態を踏まえた上で、どのようなポジションにはどのようなキャリアがありうるのかを考えていきます。また、「就職前にどのようなスキルや知識を身に付けておくべきだったか」、「実際に就職してみてもわかった大学教員の仕事」、「若手支援の取り組みの必要性」などの話題を通じて、フロアと一緒に外国語教育研究の今後について考えを深めていきたいと思えます。

座談会のトピック

1. 雇用形態の流動性とさまざまなキャリアパス
2. 若手のうちに身に付けておくべきスキル・知識・人間関係
3. 院生時代に思っていたことと勤務してわかったこととのギャップ
4. 若手支援の取り組みの必要性

大学院生のキャリアパスについての問題提起

- 実は「目新しい」トピックというわけでもない
 - 水月昭道（2007）『高学歴ワーキングプア：「フリーター生産工場」としての大学院』光文社・東京
 - 榎木英介（2010）『博士漂流時代：「余った博士」はどうなるか』ディスカヴァー・トゥエンティワン・東京
 - 岡崎匡史（2013）『文系大学院生サバイバル』ディスカヴァー・トゥエンティワン・東京
- 理系の話が多いが、人文学系の話もある
- ただし、外国語教育という分野に特化して院生のキャリアパスという話はこれまであまり語られてこなかった

雇用形態の流動性・多様性

- 大学進学者の変化
 - 18歳人口は過去20年でほぼ半減（H4：205万人 → H26：118万人）
 - 大学学部進学率（過年度卒含む）は逆に増加（H4：26.4% → H26：51.5%）
- 文科省政策の影響
 - 運営費交付金の減少（過去12年間で12%の減少）
 - 国立大学法人への運営費交付金重点支援制度（運営交付金の一部を再分配）
 - 人件費が減り、任期付き教員が増加
- 研究専念教員（例：立命館大学）・教育専念教員（例：東海大学）という役割
- 本来、「講師(Lecturer)」とは教育に専念する教員のことを指すが、日本の大学の職階における「講師(Lecturer)」は必ずしもそういった意味合いはないが…
- 年棒制の導入
- 大学だけが就職先じゃない？
- でも「博士を雇うと生産性低下？」とか言われてる…（『日本企業、博士使いこなせず？採用増で生産性低下』日本経済新聞電子版 2018年2月11日）

MEMO

若手のうちに身につけておくべきスキルとは

- 統計技術の進歩は目まぐるしい
 - t 検定や分散分析はもう古い？
 - 今は一般化線形混合モデル？階層ベイズ？
- 知識や技術の更新スピードが速い今、何が必要か
 - 時代に左右されない知識の大切さ

MEMO

院生時代とのギャップ

- 大学教員の仕事は「授業と研究」だけじゃない？
 - 週3出勤で年収1000万は過去の話？
 - 次から次へと湧き出る学内業務
 - ボランティアの学会業務
- 博士後期課程を出たら、あとはその貯金を食いつぶすだけって本当？
 - 就職したら忙しすぎて新しいことは学べない？
 - 研究よりも大事な仕事がある？

MEMO

若手支援の取り組み

- 「若手の若手による若手のための支援」…？
- 全国英語教育学会（JASELE）による大会参加助成金制度
- 外国語教育メディア学会の新人奨励賞
- 大修館書店『英語教育』の「英語教育研究最前線」セクションや「若手研究者に聞く 英語教育研究はここが一番面白い（リレー連載）」
- 卒業論文・修士論文発表会
- 学会の垣根を超えた連携
- 「支援してもらおうのを待つ」のではなく、「力をつけて存在感を示す」

MEMO